

防災教育の観点からみた石巻市立大川小学校被災

Okawa Elementary School Calamity in Ishinomaki City from the Disaster Prevention Education Perspective

*林 衛¹*Mamoru HAYASHI¹

1. 富山大学人間発達科学部

1. University of TOYAMA

東日本大震災以前から市民に提供されていた石巻市ハザードマップでは、新北上川沿いの沖積平野に河口から3.5kmもの津波遡上が予測され、明示されていた。同震災で最大級の被災の現場となった大川小学校は、浸水域予測範囲のわずか0.5km上流に立地していた。地震津波発生のしくみの多様性、潮の干満などを考えれば、高低差のない平野部での0.5kmは「誤差の範囲」といってよい。ハザードマップには、体感する震度に比して巨大津波をもたらす津波地震への注意書きもあった。つまり、公的にマグニチュード8を想定した宮城県沖地震（連動型）においても、大川小学校の津波による浸水は予見の範囲外にあったとはいえないのである。

避難訓練やマニュアルの整備の重要性が強調されているが、現実の災害は想定どおりとはならない。想定から想定外が予見できる大川小学校被災の事例などから、地球惑星科学の知見があってもいかされない自然災害の人災的側面に関する教訓を導き出す。

文 献

林 衛：中学校「理科」で震源モデルを学びたい—大川小児童の思いを語り継ぐためにも、地震学会モノグラフ第4号「学校・社会による地震知識の普及」（2015）

地震学会（<http://zisin.jah.jp/>）出版物・資料ページからダウンロード可

林 衛：有権者教育のための理科知識・批判的思考力：石巻市立大川小学校津波被災の原因，2015年10月日本理科教育学会北陸支部大会（金沢大学） <http://hdl.handle.net/10110/14685> からダウンロード可
『市民研通信』（電子版）

林 衛：大川小事故検証委員会はなぜ混迷を続けるのか

<http://archives.shiminkagaku.org/archives/2014/01/post-468.html>

林 衛：大川小事故検証委員会はなぜ混迷を続けるのか（その2）

<http://archives.shiminkagaku.org/archives/2014/02/2-11.html>

キーワード：東日本大震災、津波ハザードマップの読み方、人災的側面

Keywords: Great East Japan Earthquake and Tsunami Disaster, How Should We Study Tsunami Hazard Map, A Man-made Disaster Side

3.5kmもの津波陸上遡上が予言 マグニチュード8以上では明確に危険

石巻市河北地区津波ハザードマップ2枚を連結したものの。

想定マグニチュード8の宮城県沖地震(運動型)に基づく予想だが、北上川の津波遡上は10km以上に及び数mの浸水をもたらすこと、太平洋・追波湾(地図東側)に面した長面地区からの陸上遡上が大川小のすぐ手前500~600mに迫ることが示されていた。

マグニチュード8を越える尋常でない揺れから、このハザードマップで想定された以上の大津波来襲による危険も予測できたはずだ。

